

養育者を取り巻く環境が内的作業モデル更新に与える影響 —ソーシャル・サポートネットワーク，幸福感を中心として—

学校教育専攻

幼年発達支援コース

加藤 孝士

指導教員 浜崎 隆司

はじめに

養育者行動に影響を与えると考えられる内的作業モデル (Internal Working Model : 以下 IWM) に注目し研究を行った。IWM とは幼児期の養育者の関わりによって形成される「自己・他者に対する認知的枠組み」を指し，自らが養育を行う際は，大きな影響を与えると考えられている (数井, 2005)。

幼児期に不安定な IWM を形成した子どもは，成長後養育者になってからも不安定な IWM を保持しやすいため，悪循環を生む可能性を秘めている (Waters, Merrick, Albersheim, & Treboux, 2000)。そこで，IWM の更新 (不安定から安定への移行) 要因を明らかにすることを目的とし研究を行った。

IWM 更新要因としてアタッチメントの再構築に必要だと考えられる“重要な人物からの情緒的サポート”，メタ認知の促進に重要な役割を果たす“サポートネットワーク”に加え，Bratherton (1990) が指摘している情緒の安定を意味する“幸福感”，並びに幸福感に影響を与えると考えられる“ソーシャル・サポート”との関係を検討し，IWM に影響を与える環境要因の構造を明らかにすることを目的とした。

研究 I

目的

ソーシャル・サポートの道具的機能 (道具的，情動的)，情緒的機能 (情緒的，コンパニオン，

評価)，満足度，サポートネットワークが幸福感に与える影響について検討する。

方法

現在乳幼児を養育中の養育者 276 人を対象に質問紙法を用い，幸福感とソーシャル・サポートネットワークを評定してもらった。

結果

幸福感高群の養育者は，低群の養育者に比べ，すべてのサポートを多く受けていた。また，サポートごとに重回帰分析を行い幸福感に影響を与える人物を検討した結果，重要な人物では道具的サポート，情緒的サポート，コンパニオン，評価的サポート，満足度，3 番目の人物では満足度，4 番目の人物では情動的サポート，満足度，5 番目の人物ではコンパニオン，評価的サポートにおいて有意な影響がみられた。

研究 II

目的

重要な人物からの情緒的サポート，サポートネットワーク，ソーシャル・サポート，幸福感が IWM に与える影響について検討する。

方法

現在乳幼児を養育中の養育者 276 人を対象に質問紙法を用い，出産前と現在の IWM，幸福感，ソーシャル・サポートを評定してもらった。

結果

出産前と現在の IWM スタイルの変化ごと

に安定維持群，更新群，不安定維持群，衰退群に分類し，ソーシャル・サポート，サポートネットワーク，幸福感について比較した。その結果，重要な人物からの情動的サポート，情動的サポート，コンパニオン，評価的サポートに有意差が見られ，安定維持群，更新群は，不安定維持群，衰退群に比べサポートを十分得ていることが示された。このことから IWM 更新と，重要な人物からのサポートが関係していることが明らかとなった。また，更新群の養育者は不安定維持群の養育者よりも多くの人からのサポートを受けており，幸福感も高いことが明らかとなった。

最後に IWM へ影響を与える因果モデルを検討するため，現在の IWM の下位因子得点を目的変数とし幸福感を第 1 ステップに，重要な人物からのサポートとサポートネットワークを第 2 ステップに投入した階層的重回帰分析を行った（モデルは Figure.1 に示す）。

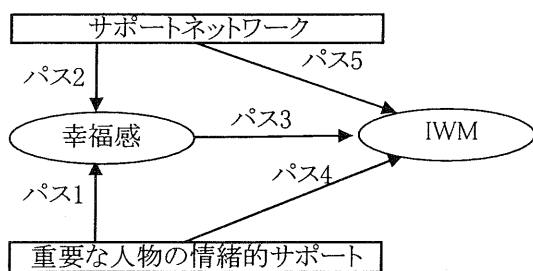


Figure.1 仮説モデル

結果，IWM の下位因子である自己感を目的変数とした場合は，パス 4，パス 5 に有意な影響はみられなかったが，他者感を目的変数とした場合は，仮説モデルのすべてのパスにおいて有意な影響が示めされた。すなわち，サポートネットワークと重要な人物の情動的サポートが自己感に与える影響は，幸福感を高めることによる間接的影響であること，ま

た他者感に関しては，サポートネットワークと重要な人物の情動的サポートが他者感に直接的影響を与えていることが明らかとなった。

総合的考察と今後の課題

重要な人物からの情動的サポートとサポートネットワークから IWM の他者感に対し直接効果が見られた。このことは，“アタッチメントの再構築”と“メタ認知の促進”を IWM 更新要因とする理論と整合した結果といえる。具体的にはアタッチメントの再構築に依拠するならば，重要な人物から情動的サポートが十分与えられることは，葛藤場面に多く出くわす子育てにあたって，繰り返し情緒の安定を導かれると考えられるため，過去の IWM を修正することが可能となったと考えられる。また，メタ認知の促進に依拠するならば，多くの人からのポジティブな関わりは，自らの認知を再考することに繋がり，関係性の捉えなおしが促進させることが可能となったためと予測される。加えて，幸福感も IWM に影響していた。このことは情緒の安定が可能となったため，関係性の捉えなおしが十分行われたといえる。ただし自己感においてはこれらの要因の直接的影響はみられなかった。

更に，研究 I において養育者を取り巻く様々な人からのサポートが幸福感に影響を与えることが示されている。そのため，様々な人物からのサポートも間接的ではあるが養育者の IWM 更新に影響を与えているといえる。

しかしながら，本稿は質問紙法を用いているため，多種多様な養育環境が存在する個人個人のサポートの性質を完全には把握できなかった。今後，養育者の生の声を聞き，個々の養育者に合った支援の可能性を検討していくことが必要であると考えられる。